

AMEDの産学連携型研究開発支援制度を
よりよく活用していただくために

ナビゲーターKが
教えます



支援制度アラカルト



AMEDでは、3つの「LIFE」を大切にする「医療分野の研究開発」を支援しています。
産学連携部の支援制度は、アカデミア等での優れた研究開発の成果を、企業にいち早く実用化してもらい、私達（患者のみなさん）が実際に使えるようにすることを最大の目的としています。そのために、探索的な研究を終えてその成果の知的財産化（特許出願など）が進みつつある「技術シーズ」を基礎（出発点）として、臨床応用（出口）に向けた「産学連携・医工連携」による研究開発を推進します。

こうした様々な支援制度については、「**制度がわかりにくい**」「**どういう研究開発なら支援してもらえるのか**」「**審査ではどういうことを評価しているのか**」などの疑問や質問が寄せられてきました。本パンフレットでは、アカデミアや企業の方々に私達の支援制度をよりよく活用していただくためのコツをご説明したいと思います。是非「サクセス双六パンフレット」と併せてお読み下さい。

※なお、本パンフレットは、「ロボット介護機器開発・導入促進事業」については、研究開発の内容や支援対象の違い等を勘案して、説明をしておりません。

Point 1

それぞれの制度の「**ねらい**」を正しく理解して下さい。

ねらいに合致しない課題（研究開発）を支援対象とすることは困難です。また、表面的に合致させても研究開発がうまく進捗するかは疑問です。

Point 2

提案の際に、可能な限り、**具体的・客観的**な説明を行って下さい。

「提案書に書かれていること」が採択審査の評価対象になります。説明すべきこと（情報）をしっかりと開示して下さい。

あらかじめ「**支援期間終了後**」のことも考えておきましょう。

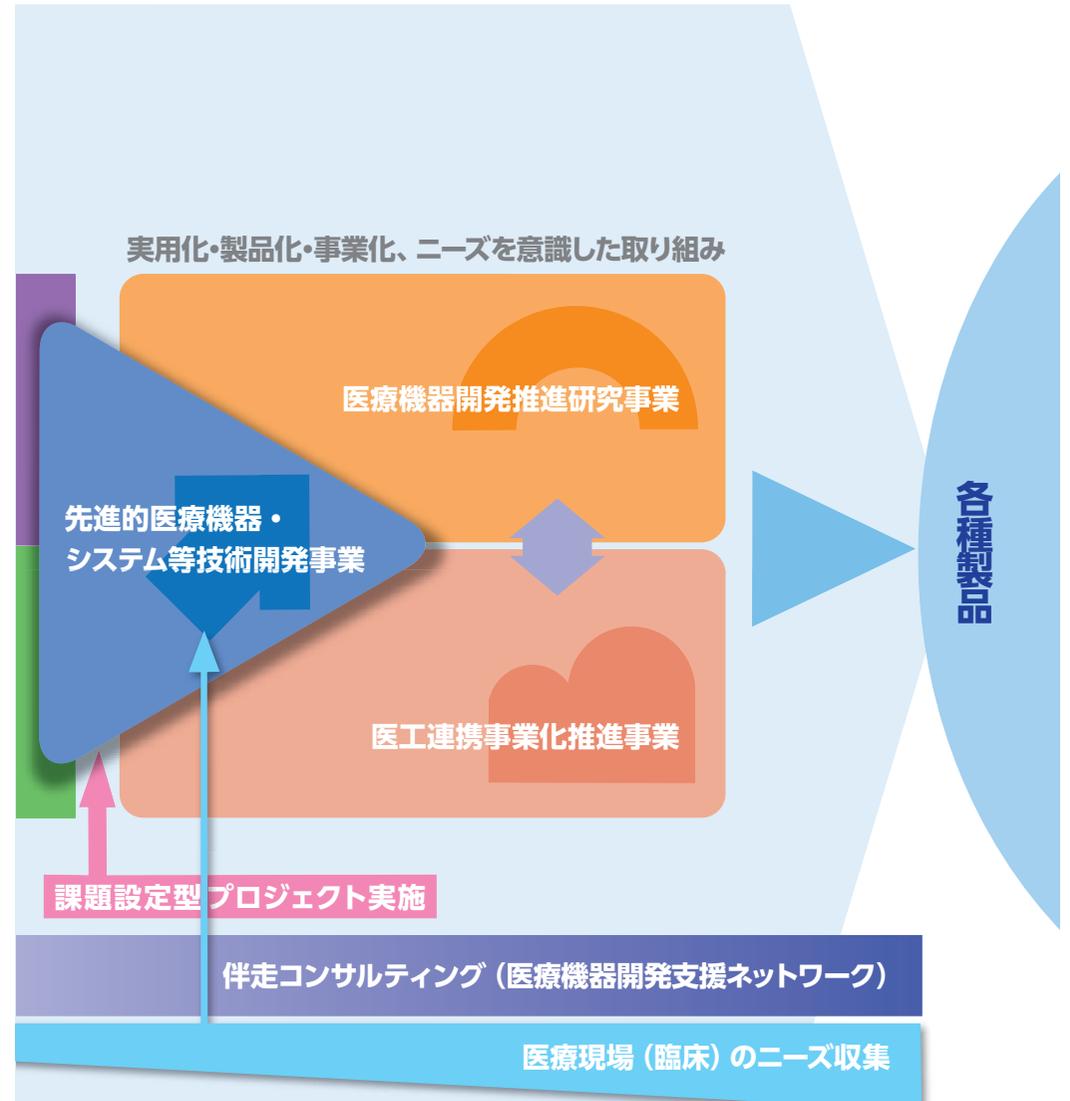
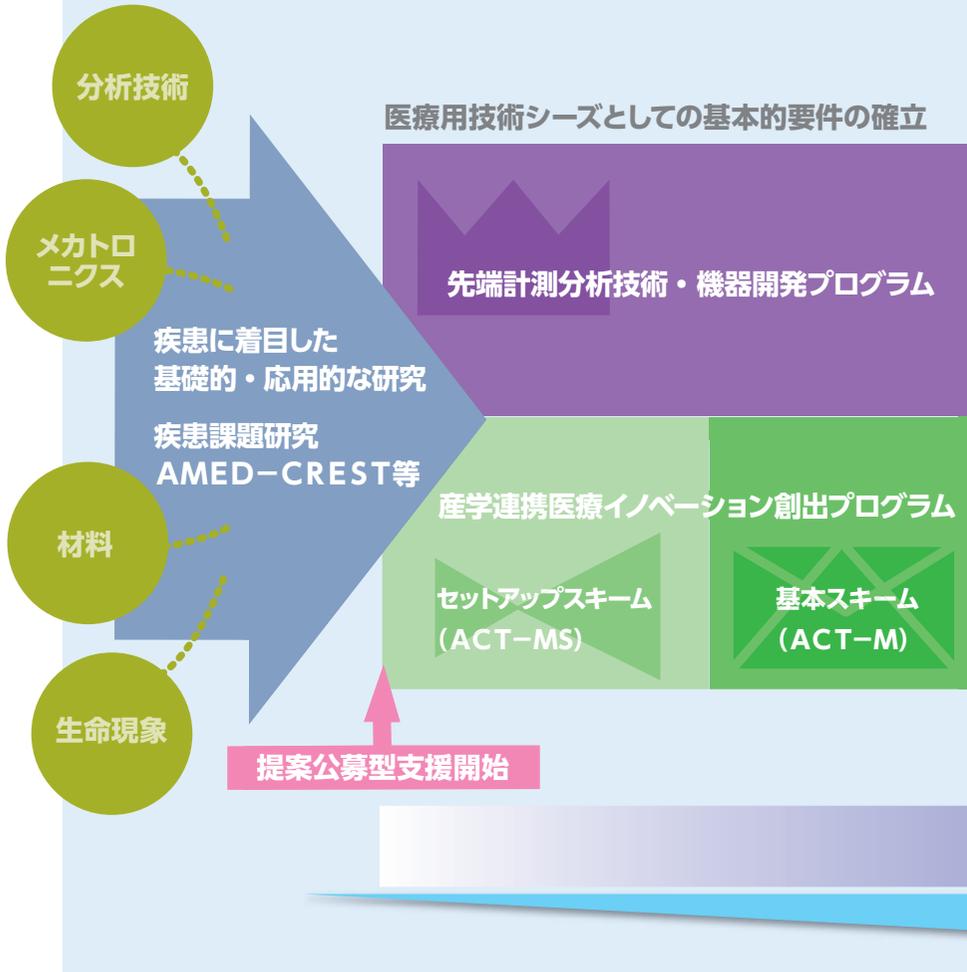
「出口」に向けたシナリオ（計画）が明確になります。また、進捗に応じた「次のステージの支援」を受けることにも役立ちます。

Point 3

産学連携型研究開発支援

のフローチャート

活用するシーズ



各種製品

アイデアボックス

こんな研究開発のサポートもやっています

(基本的には医療機器を対象としています)

伴走コンサルティング

<http://www.med-device.jp/html/support/contact.html>

概要

- 医療機器開発に関し、新規参入を含む企業（事業者）が、薬事、知的財産、技術、マーケティングなどの多岐にわたる支援（助言）を一体的に受けられるように、平成26年10月に、政府が各省・各機関の下で「医療機器開発支援ネットワーク」を構築しました。平成27年4月からは、AMEDがその運営事務局を担っています。
- このネットワークは、AMED（及び事務局サポート機関）または各地の地域支援機関（全77機関：平成30年1月時点）に設置された「ワンストップ窓口」を通じて、具体的な製品（または製品コンセプト）の事業化（製品化）に向けた第三者的立場の専門家による助言（伴走コンサルティング）や、関連する支援サービスの実施機関等の紹介を行います。

留意点

- ネットワークを通じた「伴走コンサルティング」は、研究開発資金を提供するものではありません。事業者（開発者）が「事業化」に向けたプロセスの全体像を把握することで、適切な体制構築を含む研究開発の円滑な実施や、医薬品医療機器法の速やかな承認が得られることを目指します。
- 事業化に向けた取り組みの支援を目的としているため、原則として企業やNPO法人等の医療機器の事業化を担う組織がそれら事業者等に対してコンサルティング等を行う地域支援機関からの相談を受け付けています。よって、大学等のアカデミアの関係者は、まずは地域支援機関のワンストップ窓口にご相談して下さい。
- なお、以下の事項に関する相談については本ネットワークによる支援の対象外となっています。

※「医療機器」の範囲外であることが明らかな製品（例：健康食品、医薬品等）。但し、医療機器に該当するかどうか不明な場合、あるいは医療機器として申請するかを迷っている場合はご相談に応じます。

※個別技術・特許の用途開発に関する相談（自社の保有する技術や特許を活用できる製品の探索等）

※公的機関等の補助金申請に関する相談。

アイデアボックス（ニーズ収集）

<https://www.med-device.jp/db/>

- 現実の医療現場においてどのような医療機器が求められているかについては、様々な技術シーズを有する「ものづくり企業」のほとんどは情報を得ることが困難です。一方の医療現場も、よりよい診断・治療等を実現する医療機器が開発されることを要望しても、それを実現させるための方法や手段を有していません。
- AMEDは、こうした医療現場の要望やその背景事情等を「ニーズ」として収集し、その内容を整理・分類・精査してものづくり企業等に適切に伝えることで、新たな医療機器の開発が推進されることを期待しています。このため、これらの情報をWeb上で受け渡す会員登録制の仕組みとして「医療機器アイデアボックス」を運営しています。
- アイデアボックスを通じて最終的に公開される情報は知的財産としては保護されません。このため、医療現場から提供する情報（ニーズ）には、原則として自らが考える「解決策」は記述しないようにして下さい。
- 公開する情報については、原則として、「医療機器開発支援ネットワーク」に参加する地域支援機関のコーディネーターによって、ものづくり企業等とのマッチングが行われます（最終的には、アイデアボックスの登録会員全てがアクセスできるようになります）。マッチング後は、知的財産の取扱いや利益配分等について当事者で調整した上で開発等に取り組んで下さい。
- マッチングが成立した案件に関して、AMEDの各種研究開発支援制度に応募することも可能です。但し、それぞれの公募要件に合致するように、研究開発計画の内容をしっかりと検討して下さい。

このパンフレットで用いられているシンボルマークについて

事業名	シンボル	キーワード	コンセプト
先端計測		Edge, Emerge	とんがった技術出現！
ACT-M		Innovation, Integrate	がっちり産学連携
ACT-MS		Innovation, Initiate	レバレッジの効いた産学連携を!!

事業名	シンボル	キーワード	コンセプト
医療機器開発推進		Clinical, Check	臨床応用へのチェック・ゲート
医工連携		Business, Boost	中小企業と医療機関のコラボでビジネス
先進的医療機器		Tomorrow, Trend	未来を拓こう、明日はこっこだ!!

本パンフレットに関するお問い合わせはこちら



国立研究開発法人 日本医療研究開発機構

Japan Agency for Medical Research and Development

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-7-1

産学連携部 医療機器研究課 iryokiki@amed.go.jp / 産学連携課 sangaku@amed.go.jp

各事業に関する詳細はAMEDトップから産学連携部のページをご覧ください。URL: <https://www.amed.go.jp/>

2019.03